

# グループ学習室，始めました！

みたに み え こ  
三谷三恵子

(信濃町メディアセンター)

さいじょう ちか  
西條 智架

(信濃町メディアセンター)

## 1 はじめに

「グル学ってありますか?」という質問は、信濃町メディアセンター(以下、当館)スタッフにとって、いくぶん哀しいものであった。館内にグル学、すなわちグループ学習室はなく、「当館ではないどこか」を案内するほかなかったからだ。学年が変わり、日吉や湘南藤沢キャンパスから、信濃町キャンパスへ意気揚々とやって来た医学部生や看護医療学部生、さらには健康マネジメント研究科生の顔に浮かんでいた‘落胆’の表情が、まだ記憶に新しい。グル学が整備された日吉メディアセンターや湘南藤沢メディアセンターの利用経験がある学生なら、なおさらである。そんな当館も2011年4月、ついにグル学をオープンした。「どうぞご利用ください!」と、笑顔で案内出来る日を迎え、今では自然と足を運ぶ利用者も増えている。本稿では、そんなグル学オープンまでの道のりをご紹介したい。

## 2 設置検討と背景

過去数年、当館では2008年メディアセンター利用者調査「LibQUAL+®」の結果を踏まえ、学習・研究のための環境改善に力を入れてきた。場所としての図書館サービスへの期待値が高く、学生からは個人学習の場とグループ学習の場、両方を求める声があった。しかしグル学に関しては、すぐに設置可能な場所もなく、信濃町キャンパス全体で調整する機会をうかがっていた。また、当館内に設置することが本当にベストであるのかも、見定める必要があった。

信濃町キャンパス学生の意見をより率直に聞くべく模索する中、医学部生の学習環境改善公聴会に参加することができた。同公聴会は、卒業生(昭和35年卒三田会)からのご寄付により実現することとなった第二校舎への自習室新設や、既存の自習室改修など、信濃町キャンパス全体の学習環境改善・整備を目的としたもので、国家試験対策委員会を中心

とした医学部各学年代表の自由かつ建設的な発言を聞くことができた。

### (1) 図書館にグル学は必要?

公聴会の議論は主に新自習室のスペース配分であり、やはり国家試験を控えた医学部六年生のニーズが尊重された。個人席をメインに、医師を目指す者同士、確認し励ましあうこともできる開放的な空間が望まれた。一方、先輩方に個人席を譲るとした二～五年生からは、グル学設置を望む声があり、日吉メディアセンターのグル学を心地よく覚えている学生や、当館書庫の閲覧席で勉強している学生も多くなることが確認できた。また、信濃町キャンパスには看護医療学部生や健康マネジメント研究科生もあり、彼らも共通して気兼ねなく利用可能な場所として、図書館内にもグル学があるとよい、という結論に至った。

### (2) 1階か?それとも地下か?

ようやくグル学設置へとベクトルが向いたものの、問題は館内配置とスペースである。当初、1階奥にあるレファレンス書架および閲覧席スペースをグル学として改造するという案が挙がった。1階のメイン閲覧室、ITCのPCエリアとも隣接しており、活気のある利用者スペースとして棲み分けるには適当であると考えたからだ。しかし、同スペースをグル学へと改修するには、まずレファレンス資料の再配置、棚と中2階の撤去工事が必要とされた。また、既存の個人キャレルは定着した利用があるため、グル学への変更は賢明とは言い難かった。

次の候補は、地下1階の閲覧室であった。スペースも十分にあり、什器の新調とパーティションの工夫をすれば、直ぐにでもグル学として提供が可能と思われた。しかし、中々まとまったスペースのない当館内にて、地下閲覧室をそのままグル学としてしまうのは抵抗があった。前述の通り、個人学習の場への希望も多く、静かな環境を保ちやすい地下には、個人キャレルを大胆に増設するほうが理にかなって

いると判断した。

最後に白羽の矢が立ったのは、地下会議室2（以下、会議室）であった。地下書庫へ向かう階段を降りて最初に目に入るこの小部屋は、当時は倉庫兼用のスタッフ会議室で、閲覧不可とされた名簿や未整理の資料、学位論文収納キャビネットを収めていた。古い備え付け棚の撤去等、グル学への改修工事が少なく済みそうな同会議室は、半倉庫・ノンパブリックスペースとしておくには、館内の位置的にもスペース的にも、もったいなかった。また、ミニ講座やセミナー、さらには古医書の閲覧場所として有効活用するのに適していると思われ、このダークホースにグル学を賭けてみることとなった。

### (3) 地下会議室2, 改修へ

会議室をグル学へと改修する方向で、次年度の工事予算申請も済み、室内資料の整理計画を進めていた2010年12月のクリスマスイブ、サンタがやってきた。工務課より同年度の外部資金間接経費にて、年度内の施工申し出があったのである。施工は2月11日（祝）の休館日に決定し、グル学としてオープンした状態で新年度を迎える為、それまでに資料の整備と什器選び、運用方法検討を急ピッチで進めることとなった。未整備の資料は受入れ、保存の要不要を確認し、適宜処分した。かねてより整備を進めていた学位論文は、鍵付きのキャビネットを新調し職員通用の地下スペースに設置した。その後、片付いた会議室からは棚が撤去され、清潔感のある白で壁を塗装し、落ち着いた居住感のある深緑のカーペットが敷かれた。こうして、会議室はグル学の「箱」として生まれ変わったのである。

## 3 什器選びと設備

什器は、個人または2人以上のグループおよびセミナー会場として利用することを想定し、自由に配置を変更できるキャスター付1人用机を10脚購入した。1人当たりの机の面積は狭いが、利用者は自由に机をつなげて目的に合わせて利用が可能である。

また、明るい雰囲気を出すため机の天板を白色にし、椅子の座面をオレンジ、パープル、グリーンの色、各4脚ずつ計12脚購入した。



信濃町メディアセンターグループ学習室

その他に無線LAN・電源を完備し利用者所有のPCを使って学習できる環境を用意した。

## 4 グループ学習室の利用

利用開始日を2011年3月14日（月）と設定し準備を進めていたが、3月11日（金）の東日本大震災の影響で20日遅れ、4月1日（金）にスタートした。

利用方法は、自由に利用できるオープン利用とリザーブ利用とした。

オープン利用は、当館に入館できる人全てが対象で、利用時間制限は設けていない。サービス開始から4カ月経過したが、利用者同士うまく譲りあって利用しているようであり、学部生に留まらず、医師や看護師が利用する姿も目にする。

リザーブ利用は、キャンパスを問わず慶應義塾大学在籍者と限定し、利用時間を1日2時間までとした。予約は、前日の閉館時間まで受け付けている。当日は、オープン利用とし予約は受け付けていない。その日の予約状況を、貸出・複写カウンター前とグループ学習室入口に掲示し、メディアセンター入館後すぐに予約状況がわかるようにしている。

## 5 今後の展開

グループ学習室は、館内で唯一コミュニケーション形式の学習ができる場所である。4月にオープンし少しずつ利用が増えており、少人数向けミニ講座への活用もし始めた。今後は、大型ディスプレイやホワイトボードの設置を検討し、学習効果を高めるよう環境を整えていきたい。